

図書館通信

市貝町立図書館
〒321-3423
栃木県芳賀郡市貝町市塙147
Tel 0285-68-4380
URL
<http://www.library.ichikai.jp/>

ホームページはこちら




祝☆開館30周年

市貝図書館は、11月23日で開館30周年を迎えます。

これからも皆さまが利用しやすく楽しめる図書館を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。



今月号は特別版です。内面の読書通帳もぜひご活用ください。

11月のイベント

イベントの開催については、感染症対策を講じながら安全にできるよう配慮しております。※状況により変更・中止あり

★秋の全国読書週間イベント

●3点借りてくじ引きにチャレンジ

期間：11月9日（火）まで ※なくなり次第終了
内容：資料を3点以上借りてくじ引きにチャレンジ！
当たりによって雑誌の付録が選べます。

★開館30周年記念プレゼント

期間：11月23日（火）～なくなり次第終了
内容：開館30周年を記念して、期間中資料を借りた方にプレゼントをさし上げます。

★ダンボの会のおはなし会

日時：11月28日（日）10:30～（30分程度）
場所：1階 おはなしコーナー
対象：乳幼児～小学校低学年まで
定員：10名まで ※状況により人数制限あり
内容：ボランティアによる絵本の読み聞かせです。
お問い合わせ：市貝図書館 ☎68-4380

ツイッターでも情報配信中！



市貝町立図書館
『いっとくん』
@ittokun_ichikai



twitterで「市貝図書館カルトクイズ」実施中！



★開館時間 9:30～19:00★

感染症対策のためサービスの制限をしています。ホームページやtwitterでも情報を更新しています。引き続き感染症対策にご協力ください。



★市貝図書館オリジナルトートバッグ販売します★

開館30周年を機に、市貝図書館オリジナルトートバッグをリニューアルしました。先着50名様には限定缶バッジをプレゼントします。図書館用に、その他お買い物用にいかがでしょうか？お気軽にカウンターまでどうぞ！

販売開始：11月23日（火）～
販売価格：500円（税込）



★蔵書点検の結果報告★

10月5日（火）～10月8日（金）に、蔵書点検を行いました。休館中にご不便をおかけいたしました。点検の結果、5点が不明となっています。

- ・一般書（コミックノバライズ本）4点
- ・児童書（絵本）1点

図書館の資料は、町民の皆さまのものです。今後も責任を持って追及してまいります。

図書館カレンダー

11月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30※				

※…月末資料整理休館日

12月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

…休館日

改めて 市貝図書館のご紹介

開館30年をちょっとだけ振り返る



平成24年4月から、指定管理者が図書館を運営しています。毎回ご好評をいただいている「図書館まつり」もこの年から始まりました。今年度も開催を予定しています。



市貝図書館は、平成3年3月20日に完成し、様々な準備をして11月23日に開館しました。当時、歴史民俗資料館が併設されているのは、県内でも珍しい図書館でした。



図書館通信キャラクター「いっとくん」は1月19日生まれ。(歳は……?) 名前は公募により決定しました。たくさんの方に市貝図書館を知ってもらうため毎日広報のお仕事をしています。これからもよろしくお祈りします!

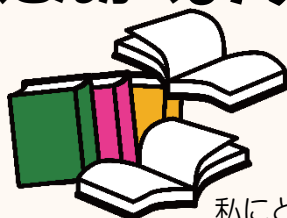


お問い合わせ 市貝図書館 68-4380



「推しの作家さんからおすすめの一冊」

「メロンと寸劇」
向田邦子 // 著
(河出書房新社)



「罪の轍」
奥田英朗 // 著
(新潮社)

スタッフのおすすめ

スタッフのおすすめ

1981年、40年前に飛行機事故で急逝した向田邦子さんのエッセイ集です。厳選した作品が収録され、今年刊行されました。

今でも人気がある作家ですが、その理由は読んでみれば分かります。食べ物とそれにまつわる人間を描いたエッセイが収録されていますが、どれも珠玉と言える作品です。食べることと人間が本当に好きな人だったのでしょ。ユーモアが効いていて後味も上々。何度でも読みたくなります。

急逝したのが残念でなりません。もっともっと作品を読みたかった。何歳になってもその時々世相を鋭く切り取り、作品を書き上げていただろうと思います。新作はもう出ませんが、決して色あせない彼女の作品をぜひ読んでみて下さい。

私にとっての推しの作家。それは『奥田英朗』だ！推しのおすすめ作品と聞かれたら絶対的に「イン・ザ・プール」(とにかく笑える、面白い。)と答える。でも、この作品は2017年9月号で紹介しているので今回はミステリーのご紹介です。

「ナオミとカナコ」こちらも奥田ワールド全開で面白いのでぜひご一読頂きたいのですが今回、紹介する「罪の轍」もかなり引き込まれた作品でした。

「罪の轍」は、世間から置き去りにされた人間の孤独と緊迫感あふれる描写と圧倒的リアリティが面白い。昭和の時代にタイムスリップした気分になるとこが懐かしい社会派、犯罪ミステリーです。

読了後は2021年読書週間より「最後の頁を閉じた違うわたしがいた」この標語にふさわしく読み応えがある最も心に残った奥田ワールド全開の作品です。

しょうちゃんのひとりごと



新型コロナウイルスがまん延している時期の東京パラリンピック開催は批判的、懐疑的な声が多かった。しかし、閉会後の世論調査では「よかった」との回答が6割を超え、「よくなかった」のほぼ倍に達する結果が出た。勝利の歓喜、敗北の悔しさ、記録や技術への驚嘆とスポーツとしての醍醐味を十二分に味わわせてくれた。日本のメダル第1号は競泳女子の山田美幸選手14歳。重い身体障害があったが、5歳から通い始めた水泳教室では「みんなと同じように泳げた。水泳では他の子と違うなと思ったりはしなかった」という話を聞いて、障害を障害として捉えない笑顔に真から強く心を打たれた。その後、山田選手同様次から次と障害を超えた選手たちの姿を目の当たりにして感動の連続だった。それにしても選手たちのレベルの高さに驚かされるばかりだった。また、競技場内に限らず多くの選手たちをサポートする人々にも心を揺すぶられた。1+1の答えを3にも4にもする「共生」の手本は東京パラリンピックの大きな遺産になるに違いありません。パラリンピックは来年の北京冬季、3年後のパリと続いて、その間に栃木県で開催される「いちご一会全国障害者スポーツ大会」と続いていきます。是非ともレガシーを熟成させたい!